

食に関する指導の全体計画

学校教育の重点目標

- 互いに尊重し合う子ども
・思いやりと助け合い・自らを高める
- 意欲的に学ぶ子ども
・「確かな学力」の向上・学び合う姿

食に関する指導の目標

- ・食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
- ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
- ・正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
- ・食物を大切にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。
- ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
- ・各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

指導の重点

低学年	中学年	高学年
<p>①食時の前の手洗いや準備・片付けなどの流れを理解し友達と仲良く給食を食べることができるようになる。</p> <p>②箸の持ち方を知り、食器と箸を使って、きれいに気持ちよく食べることができるようになる。</p> <p>③野菜の栽培体験や継続的な観察を通して生命や自然を尊重する姿勢を育み、旬の食べ物に対する興味・関心が高まるようになる。</p> <p>④気持ちのよい1日を過ごすために早寝早起き朝ごはんが大切であることを理解できるようになる。</p>	<p>①地域の産物や風土の違いから生まれた食文化の多様性や、行事食について理解できるようになる。</p> <p>②食に関わる仕事に携わっている人たちがいることを理解し、様々な人が自分たちの生活を支えていることについても考えることができるようになる。</p> <p>③1日の生活リズムに合わせて、食事、運動、休養睡眠の調和のとれた生活を続けることの必要性について理解できるようになる。</p> <p>④よりよく発育発達させるために、栄養のバランスのとれた食事をとることの大切さについて理解できるようになる。</p>	<p>①生活習慣病予防のために、糖分、脂肪分、塩分などを取り過ぎる偏った食事や間食を避けるなど健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解し、自ら考えながら食事ができるようになる。</p> <p>②米を中心にした日本の伝統的な食事とその配膳について理解し、自分の食生活に活用できるようになる。</p> <p>③食文化が地域の伝統や気候風土と密接な関係があることを理解し、それに主体的、創造的に取り組むことができるようになる。</p>

具体的方策

家庭地域との連携：児童が食への関心を持ち望ましい食生活の実践ができるように家庭や地域への啓発活動を行い、家庭地と協力する。(学校だより・給食だより・お弁当通信・講演会・学校保健委員会・給食試食会)

地場産物活用：町教育委員会、農協、地元農家、漁協、食推、町P連との協力体制を継続し地場産物を使用することで地域の産物を紹介し地域について関心を高める。

個別指導の取組：食物アレルギー、健康相談、栄養指導の個別相談指導は、保護者からの申し出、定期健康診断の結果、日常の観察から個別相談指導が必要な児童を対象に行う。